

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670900683		
法人名	医療法人 朗友会		
事業所名	グループホーム さいわい		
所在地	京都市伏見区向島本丸町28-2		
自己評価作成日	平成22年9月17日	評価結果市町村受理日	平成23年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.kyoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2670900683&amp;SCD=320">http://kohyo.kyoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2670900683&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年11月17日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人であり、建物の1・2階がデイサービスで3階がグループホームになっており、デイサービスの行事は参加している。個人に合わせた対応を行い、利用者全体の空気がゆっくりと漂っています。特にグループ内での重視しているのは、口腔ケア。口腔内の清潔を保ち、口からの菌を予防に取り組んでいる。夜の口腔ケアを重点している。管理栄養士の献立による配食で、栄養・本人の体調に合わせた食事を提供している。母体が医療法人の病院であることより、週2回の定期検診で利用者の健康管理を行っている。緊急時での対応が迅速に行える。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームの庭には長い四季の花が咲く散歩道があり、広い玄関ホール、共同居間にはエレベーターやピアノが置かれゆったりとした空気が感じられます。医療法人を母体に持ち医療面のバックアップは万全であり、更に「食生活が健康を維持する根幹」との法人の思いがあり、管理栄養師による吟味された美味しい食事が提供されています。地域との密接な関係を築くことに力を入れ、行事の参加や中学生の体験の受け入れ等に取り組まれています。管理者は相談しやすい雰囲気を作り、職員が提案したことも真摯に受け止め取り組みを重ね信頼関係が築かれています。利用者のできることには見守り寄り添うケアや衛生維持のための口腔ケアに重点を置き、その方針を職員全員が共有し実践されているホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念(「私たち職員は入居者の皆様の尊厳を保ち、穏やかで安らぎのある暮らしを地域の皆様と共に支えてまいります)の理念を職員で確認をしながら行っている。	開設当初からの理念を掲示し、毎日の申し合わせで確認している。理念のもと、利用者のゆったりとした穏やかな生活への支援や地域に根差したホームを目指し取り組んでいる。入職時オリエンテーションで新人職員に伝え、会議等で実践できるように話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事など、参加を行っている。地蔵盆に参加している。又、1・2階はデイサービスであるが、近隣の人でもデイサービスを利用されており、交流がある。	自治会に加入し行事の案内をもらい、できる限り参加している。散歩時に挨拶を交わしたりお花を頂くなど日常的な交流があり、幼稚園の運動会に応援に出かけたりしている。地域の3校の中学生の体験学習を受け入れ、トランプ遊び等を楽しんでいる。地域の住民であるデイケアの人々との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の住人に見学に来てもらうなど施設の案内を行い近隣の方に認知症等を理解してもらっている(運営促進会議時に行う)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	主に、行事を行う時に行い家族と利用者が共に楽しんでもらうようにしている。利用者と一緒に時間を過ごしてもらうことにより、実際の暮らし・サービス内容を感じてもらい。その上で、今後の方向性について話し合う。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、利用者の様子や行事の報告を行い、地域との関わりについてなど具体的にテーマを決めて意見交換を行っている。地域包括支援センターの職員、家族等の参加に加え、体験学習の中学生にも参加してもらい、様々な意見を運営に反映できるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	平成19年4月までは介護相談員の受け入れを実施したが、終了後も相談に応じていただいていたが、現在は、行っていない。	区から年度初めに集団指導に出席し、研修の案内があれば参加するようにしている。運営推進会議の議事録を直接提出して見てもらい、運営状況を報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で身体拘束のないケアに取り組んでいる。居室は鍵をかけず対応している。	身体拘束をしないケアについて勉強会を行い、全職員に周知を図っている。つなぎの服を使用した事があったが、話し合いを重ね現在は使用していない。エレベーターはロックがかかっていますが、出たいときはできるだけ付き添って外に出られるようにし、閉塞感を無くすように支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に虐待がないように職員同士確認を、行っている。		

グループホームさいわい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の利用者がいる。後見人の訪問もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面談を行い不安な事は予め解消できるようにしている。契約時は、契約書を見ながら説明する。施設ない案内を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談箱を設置し、相談や意見がある時は投函してもらう。又、市町村窓口を事業所内に掲示している。内容はクレーム報告書・事故報告書に記載し内容を検討している。	意見箱を設置しているが意見が入ることは少なく、面会や家族会で直接様々な要望や意見が聞いている。出された意見を職員と話し合っって対応策を決め、家族に報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者を交え、話し合いを行う。	ミーティングは1~2ヶ月毎に開き、職員の意見を出し合いながら行事や業務内容を検討している。管理者は、普段から職員に何でも言ってもらう様に声をかけている。特に行事は持ち回りで担当を決め、利用者を始め家族等にも楽しんでもらえるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が意欲的に働けるようできる限りの努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を確保し資格取得できるような環境を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と情報交換したり合同の会議に参加をよびかけている。		

グループホームさいわい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所直前は、本人・家族・管理者・介護リーダーで、事前面談を行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族・管理者・介護リーダーで、事前面談を行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅での、生活支援のお手伝いを行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の精神状況に合わせ、声かけを工夫している。掃除・食後のかたづけなどを共にに行っている。ホールのカーテンの開閉は、利用者の役割となっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・電話等でお互いの情報・考え方などの話し合い、対話する機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に面会に来られる家族が多くその際昼食を外でしたり、墓参りにも一緒にいけるような雰囲気作りを行っている。又、家族の写真も居室に置く環境作りを行っている。	利用者に入居前の馴染みの人や場所を聞き、家族に相談し、会いたい人に来てもらったり、馴染みの場所に家族と一緒に買物に行っている。年賀状のやり取りを支援して、関係を続けるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人での時は、声かけにて誘う。孤立を防げるようにしている。テーブルは円卓でお互いの顔が見え話しやすいようしている。又、大勢で参加できるように大きめのテーブルを配置している。(パズル・塗りえ等)		

グループホームさいわい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	殆どの方が入院先の病院に入居中の利用者を連れて訪問している。必要があれば利用者・家族には連絡を行う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時は、馴染みの物を持ってきてもらうように説明している。テーブル・座る位置は決まっているが利用者の意向にそうようにする。	家族から生活歴等の情報を聞き、独自のアセスメントやセンター方式に情報を追加し、その情報を基に利用者の思いや意向を検討している。また、表情や行動を観て思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用することで、本人の生活歴生活環境の把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録介護記録を使用して、本人の一日の行動・状態がわかるように記載している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を活用し、家族家族の面会時に話し合い要望に応じて作成している。	家族と話し合い方向性を決め、ミーティングで話し合い介護計画を立てている。本人の力を使い生活が送れるよう、見守りや寄り添うケアが計画に反映するように心がけている。半年に1回介護職に聞いてモニタリングを行い、変化があればその都度計画を変更している。	日々の記録に、介護計画に対して実施した事が記載されておらず、今後実施状況が記録でもわかるように工夫されれば、更にモニタリングや振り返りやすくなるのではないのでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の申し送りを一日朝・夕2回行っている。又ミーティングなどでアイデアをだしあい作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療的な管理は病院に管理し服薬は薬剤師・食事は管理栄養士と密に連絡を取り合っており、健康管理ができています。		

グループホームさいわい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営促進会議の出席で地域(町内の住民)も訪問。デイサービス・ホームヘルパーが同じ建物にあることもあり相談しやすい状況にあり手がすいているときに訪問してもらう。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族は基本的に法人の病院をかかりつけ医とすることで適切な医療を受けやすい為安心できると考えておられる。週2回法人の病院よりの往診を受けている。訪問歯科も利用している。	希望を聞き今までどうりのかかりつけ医に受診することも可能であるが、殆どの利用者は法人の病院に変更されている。協力医からは2週間に1回の往診を受け、24時間連携体制も整っているため緊急時には電話相談を行い対応している。必要に応じて訪問歯科の受診している方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師の為、常に対応している。状況把握・対応が迅速に行える。一日2回の申し送りとその都度伝える。(特に体調不良の人)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先は法人の病院が主であり医師・病棟とは常に連絡は取り合っている。退院後は看護サマリを取り寄せ、本人の様子を見ながら対応を行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは事業所ではまだ行っていない。介護で対応できる範囲内であれば通院・往診で対応。随時状況を医師や家族と相談しながら対応している。	重度化し介護から医療優先となった時は入院となるが、利用者の状況が変化した時には担当医と家族と三者で繰り返し話し合い対応を決めている。できる限りホームで対応できるよう、申し送りや勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルにて全ての職員が確認済み。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に半年に一度消防訓練を行い実践できるようにしている。又、地域の住人の参加もある。	年に1回消防署の立会いの下、ホーム独自でも年に1回避難訓練を行っている。夜間想定をメインに避難誘導や消火器の使い方の練習、点検等も行っている。運営促進会議で避難訓練の報告を行っている。	運営促進会議等の機会に、避難訓練の報告だけではなく、地域との協力体制について話し合われてみてはいかがでしょうか。

グループホームさいわい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護は注意を払っている。声かけの工夫を行う。研修も行った。	基本的には敬語で丁寧な言葉遣いをするように指導している。接遇研修を行い、不適切な言動が見られた時には、管理者が注意したり職員同士で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「外に行きたい」と訴えがあれば随時散歩に行き気分転換を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の、レクリエーションは、こちらから決めるのではなく一人ひとりのやりたいことを聞いて行う。(パズル・塗りえ・カード遊び等)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服・入浴後の服は本人の好みを聞いて確認を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日食事メニューを提示している。又、食事の前後は、テーブル拭き・食器のすすぎをその日やりたいと希望者に行ってもらっている。	管理栄養師の立てられた献立で、法人の病院からの料理が届き、ホームではご飯、味噌汁を作っている。米とぎや皿洗いなど利用者のできることに携わってもらっている。職員も一緒に食べ、楽しい食事の時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による月2回の栄養指導を取り入れており、入居者一人ひとりにあった食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず声かけを行い介助を要する人は職員が付き添い口腔ケアを行っている。又、起床時・就寝時も同様に対応している。		

グループホームさいわい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄状況を把握し訴えない人は、時間毎にて排泄の声かけ誘導を行っている。	自立に向けて利用者の排泄のパターンを把握し、さりげなく誘導したり、転倒しないように見守りをしている。夜間オムツを使用している人はおらず、ポータブルを利用し排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日水分提供をおこなって、水分を飲んでもらう。テレビ体操・ラジオ体操で体を動かしてもらう。又、医師の指示のもと下剤で調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	「ゆっくりお風呂に入り入りたい」との希望がある人は、自分の入浴時間を変更しゆっくり入浴ができる時間帯に入浴してもらう。	利用者の生活のリズムに合わせて午後から入浴してもらっています。伏見の井戸水を使用しているため、温泉に入っているような気分になったり、季節のゆず湯や菖蒲湯を楽しんでもらっています。拒否がみられる人には、その人の癖や反応を観ながら、声かけに工夫して入ってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	常時、本人の状況を見て、不調・うたたね等している人は、自室でゆっくり休息してもらうよう声かけを行っている。拒否があれば本人の意思を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による月2回の療養指導を取り入れている。入居者別の内服薬の一覧をファイルしている。常に閲覧ができる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的に家事が好きなひとは掃除・洗濯干しを一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には、定期的に散歩に行ったり季節毎で地域の行事・お花見・紅葉見学に行っている。その時家族に協力してもいい外出ができるようにしている。	近隣への散歩やホームの敷地内に散歩ができる庭があり、利用者の状況に合わせて外出している。家族と一緒に買物や墓参りに出かけたり、病院の受診の際の往復に車いすで行き、散歩を兼ねるなど無理のない外出を支援している。	

グループホームさいわい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にお金がないと不安になる人は、小銭程度のお金をもってもらっている。又、買物ツアーを計画し本人の欲しい物・必要な物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状などは本人に手書きをしてもらったりしている。又希望があれば随時対応可能。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月各自でその月のカレンダーの色塗りをを行いホール内に入居者が作った季節の作品を飾っている。	角のない丸テーブルで、利用者同士が少人数で親近感を持ちながめるようにしている。花や折り紙が飾られ季節感を感じられるようにし、ピアノやエレクトーンがあり演奏したり聞いたり楽しんでいる。利用者が作ったカレンダーが温かい雰囲気を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大きなテーブルを用意している。集団でおこなうのに対応できるよう。食事は自分の好きなところで食できるよう対応を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で馴染みの家具・使用していたテレビ等を持参している。	馴染みの物を持って来てもらえるよう説明し、家で使っていたテレビやダンスなどを持ち込んでいる。また、得意の塗り絵を自室一杯に貼り、自分らしい居室を作っている方もいる。それぞれの入口には見やすいようにネームプレートが、利用者の状態に合わせた高さに変えて貼られており、工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所がわかるように張り紙等を行っている。できるだけ自身でできるように常に見守りを行い、できないところをできるようになるための工夫を行っている。		